

滝川 ふみ さん

ガラス屋23n.
<https://glass23n.com>
<https://www.instagram.com/glass23n>



「イロドリブローチ」

た。その表現の広さに心を奪われ、卒業後は富山県の富山ガラス造形研究所で腕を磨いた。2015年からは、地元大館市に工房を構えて創作している。制作を重ねる中、「ガラスでパッチワークのような表現ができるのでは」と、好きな柄をガラスで描いて盛り込む作風にたどり着いた。作品は年々色柄が密になり、彩りを増しているという。「作る模様は固定せず、思いつくまま、焼き上がるまま、さまざまなかや柄を表現したい」。念願だったものづくりの道。創作する喜びが笑顔にあふれていた。

MY GALLERY

私のギャラリー

FUMI TAKIKAWA

ガラスのプレート・アクセサリ



「イロドリプレート」

日常に光とカラフルな彩りを

水玉、縞、格子、四角…。色とりどりの模様が1枚のガラス板に密集している。それはまるで異なる布地を縫い合わせて作るパッチワークのよう。電気炉を使う手法「キルンワーク」でブローチやヘアアクセサリ、プレートなどを制作している滝川ふみさん。異なる色ガラスや箔などの金属素材を電気炉の高温で融着させ、ガラスでさまざまな絵柄を描く。

制作は模様作りから始まる。例えば水玉模様。ガラスを細かく切って電気炉で溶かし、小さな粒をたくさん作る。それを手作業でガラス板に乗せ、電気炉で溶解させると水玉模様の板が完成。このようにして手作りするさまざまな色柄の板をびつたりと並べ、電気炉で熱して一つにする。最後に板をカットして、つやを出す仕上げの加熱を行って作品は出来上がる。一つの作品に窯入れを4回行う。

滝川さんは、高校卒業後に就職したが、ものづくりの道に進みたいと退職して秋田公立美術工芸短大(現秋田公立美術大)に入学。ガラス工芸に出合っ